

**研究事業 子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)に関する研究事業
(エコチル調査コアセンター)**

委員会の主要意見

現状についての評価・質問等

- 世界の他の研究プロジェクトと比較して脱落者が少ないことを高く評価する。これは、日本人の真面目さが要因の一つだと思われるが、それ以上にこの研究事業に携わっている研究者の努力の成果が現れた結果だと思われる。【事後】
- コロナ対応の事業への影響は大変で、かつ依然として流動的であることがよく分った。柔軟な対応を期待する。【年度】
- 各ユニットからの研究提案を総括して、コアセンターが主導する研究提案も必要ではないかと思った。【年度】

今後への期待など

- 全国のユニットセンターの担当者による波及的研究の遂行、すなわちそれぞれが競争的外部資金の獲得等によって、エコチルと関連した研究テーマを並行して推進しており、それらの波及的研究の拡大および(期待される)成果についても、情報を集積して一層アピールしてみてもは如何か?【年度】
- 国際的に他国や国連のコホート研究機関とはどのように連携をしようとしているのか。【事後】
- 長期にわたる、膨大な試料分析で定量的な解析ができる調査であり、追跡率も高いまま維持されているという参加者と担当者の努力を高く評価する。子供たちも成長して、この調査の重要性や自分の成長への関心が高まるであろうから、親子との面談は重要になってくると思われる。【事後】

主要意見に対する国環研の考え方

- ① 参加者維持は、コアセンターとユニットセンターが協力し、最優先事項の一つとして対応して参ります。
- ② 社会情勢に留意した上で、計画に沿った調査の推進に努めて参ります。
- ③ 中心仮説の重要課題につきましては、運営委員会の承認の下、指定課題としてコアセンターも論文執筆に関わるようにしております。
- ④ エコチル調査においては、各ユニットセンターが独自で獲得した競争的外部資金により追加調査を実施する枠組みを設けております。追加調査の課題は 200 を超えておりますが、その成果につきましても整理しアピールできるようにしておきたいと存じます。コアセンター所属研究者も、環境研究推進研究費等も獲得しており、その成果もアピールいたします。
- ⑤ 環境省と協働し、国際機関(WHO や IARC など)との協力や、他国(米国、ドイツ、フランス、デンマーク、ノルウェー等)との協力を実施しています。特に、大規模出生コホート研究との連携は、密に実施しており、これまでコアセンター研究者が主導し共同論文を 1 本発表し、現在も共同研究を実施しています。
- ⑥ 現在全子ども参加者の検査を目指して学童期検査(小 2)を実施中です。COVID-19 の影響もあり調査の中断も余儀なくされましたが、可能な範囲で継続しています。2023 年度からは学童期検査(小 6)を予定しています。参加者の直接の面談の機会を重視し、調査を実施します。